

# 一般質問通告書

【第70回定例会】

多可町議会議員 河崎 一 様  
 多可町議会議員 廣畑 幸子



受 領 日	番号
平成28年 5月 30日 午前・午後 8時30分	3

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1 子宮頸がんワクチンの副作用に苦しむ患者に温かい手を	町長
別紙に記載	
2	
3.	

## 質 問 の 内 容

子宮頸がんワクチンは、子宮頸がんの予防に有効と、平成 22 年（2010 年）から公費助成が始まりました。最初は任意接種でしたが、平成 25 年（2013 年）4 月からは、小学 6 年生から高校 1 年生相当の女子を対象に、定期接種が導入されました。

しかし、その副作用（副反応）と見られる深刻な健康被害が全国から報告され、結果 2 カ月後には、接種の呼びかけは中止。しかし当面は継続、そして積極的ではない定期接種となりました。

ワクチン接種で健康被害が生じた場合は、定期接種では入院、通院を問わず医療費の自己負担分が支給され、一定額の医療手当も支給されます。

しかし、定期接種化前の場合は、入院相当のケースしか医療費は負担されず、手当でも支給されませんでした。

このような中、厚労省は接種を受けた時期によって救済水準が異なる現行制度は改善する必要があると判断。またワクチン接種との因果関係が否定できないと認定。平成 27 年（2015 年）9 月には、厚労省は定期接種化前に接種した 11 人を救済することに決めました。

厚労省によると、昨年 9 月の発表ですが、ワクチンの販売開始平成 21 年（2009 年）から平成 26 年（2014 年）11 月までに推定約 338 万人が接種を受けたとしています。健康被害は約 2600 例にも上り、重症は 4 分の 1 ともいわれています。

多可町にも重篤な副作用で苦しみ、後遺症に苦しんでいる娘さんが居ます。子宮頸がんワクチンを、中学 2 年生～3 年生の間に 3 回接種しました。

高校 1 年生の冬から異変が起きました。過呼吸・倦怠感そして 2 年になると、背中や頭が痛み始めました。痛みは生半可なものではなく、その後も様々な症状が出ました。

ワクチン接種からは時間も経っていたので、ワクチン接種の副作用とは考えつかず、病院に行っても、過呼吸は「パニック障害」と診断され、倦怠感や痛みなど、「思春期特有の心因性のもの」と診断されました。

平成 27 年 1 月症状が似ていると知人より連絡を受け、専門医に診断してもらうことができ、やっと原因が分かりましたが、それから入退院を繰り返しました。

現在は高校に通っています。でも「元気で通っておられます」と私は言い切ることができません。後遺症も残っています。ご本人も家族の人たちも不安を抱えたままです。

そして、このワクチンの副作用は、今は何ともなく生活している人でもいつ発症するか分かりません。

そこでお聞きします。

1、子宮頸がんワクチンは現在接種の勧奨を中止しています。しかし、副作用および後遺症で苦しんでいる人がいることを、町長はどうお考えですか。

2、子宮頸がんワクチンでの副作用とみられる症状は、いつ出てくるか分かりません。ワクチン接種対象者とその保護者に対して、副作用の問題をどのように説明しているのですか。

3、厚労省は、子宮頸がんワクチンの定期接種化前の接種の人にも、定期接種の人と同様の措置を決めていますが、支給までの期間は相当かかっているのが現状です。町としても、健康被害を受けられた人に安心して治療していただけるよう、医療費の支給などを考えるべきではありませんか。